

第3章 草津市における地域活動のための人的資源

1 アンケート調査の概要

(1) 目的

高齢化の進展に伴い、各分野において第一線にいた人材が退かれることを想定すると、地域には多くの人材が眠っていると考えられる。このようなことから、今後10年以内に、地域の活動において中心的に参画できる人材の状況や、地域活動への参画意欲、また、地域活動を活性化することに対してどのように考えているか、アンケート調査を実施することにより、市内における地域性の違いの有無などを検討する。

なお、本アンケートにおける居住地による比較は、中学校区別の6区分、並びに「新市街地」「旧市街地」「新旧混在地」「郊外」の4区分(参考資料1)に分類して検討した。

(2) 調査方法

対象者を抽出し、郵送によりアンケート調査を行う。

対象者：2018(平成30)年9月30日を基準日として、草津市に住民登録のある50歳以上70歳未満の市民とし、その中から無作為に抽出した2,000人に郵送で調査票を送付。ただし、無作為抽出時には、小学校区ごとの人口比率、男女比率、50歳から59歳と60歳から69歳の比率を考慮し抽出数を按分した(表3-1)。

表3-1 アンケート対象者抽出数

小学校区	男性 50歳～59歳	男性 60歳～69歳	男性計	女性 50歳～59歳	女性 60歳～69歳	女性計
志津	52	36	88	45	36	81
志津南	15	27	42	17	31	48
草津	50	41	91	45	44	89
大路	60	34	94	57	37	94
矢倉	38	29	67	32	35	67
渋川	45	29	74	42	30	72
老上西	31	28	59	28	29	57
老上	32	28	60	28	32	60
玉川	46	35	81	39	37	76
南笠東	34	31	65	32	33	65
山田	36	35	71	34	38	72
笠縫	36	45	81	37	51	88
笠縫東	41	42	83	37	47	84
常盤	19	25	44	20	27	47
全体	535	465	1000	493	507	1,000

出所：草津未来研究所作成

回収期間：2018(平成30)年12月1日から12月17日

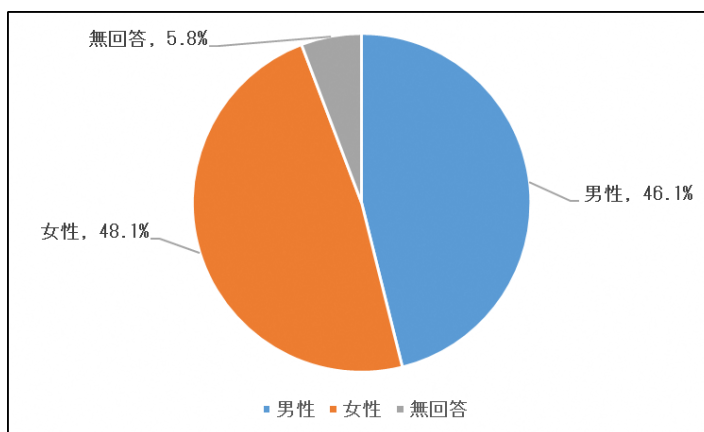
回答方法：郵送

回収数：761件(38.1%)

アンケート内容：参考資料2 参照

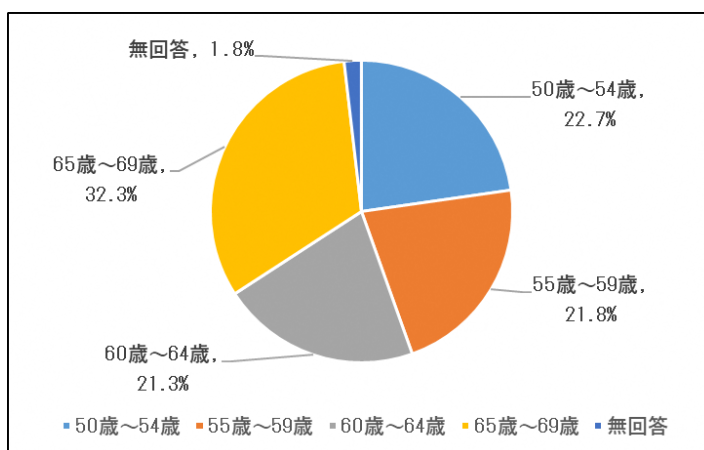
2 調査結果

(1) 回答者の状況



出所：草津未来研究所作成

図3-1 回答者男女比



出所：草津未来研究所作成

図3-2 回答者年齢比

性別による回答者の割合は、男性46.1%、女性48.1%、その他及び未回答は5.8%であった(図3-1)。また、年齢区分で見ると、50歳代前半22.7%、50歳代後半21.8%、

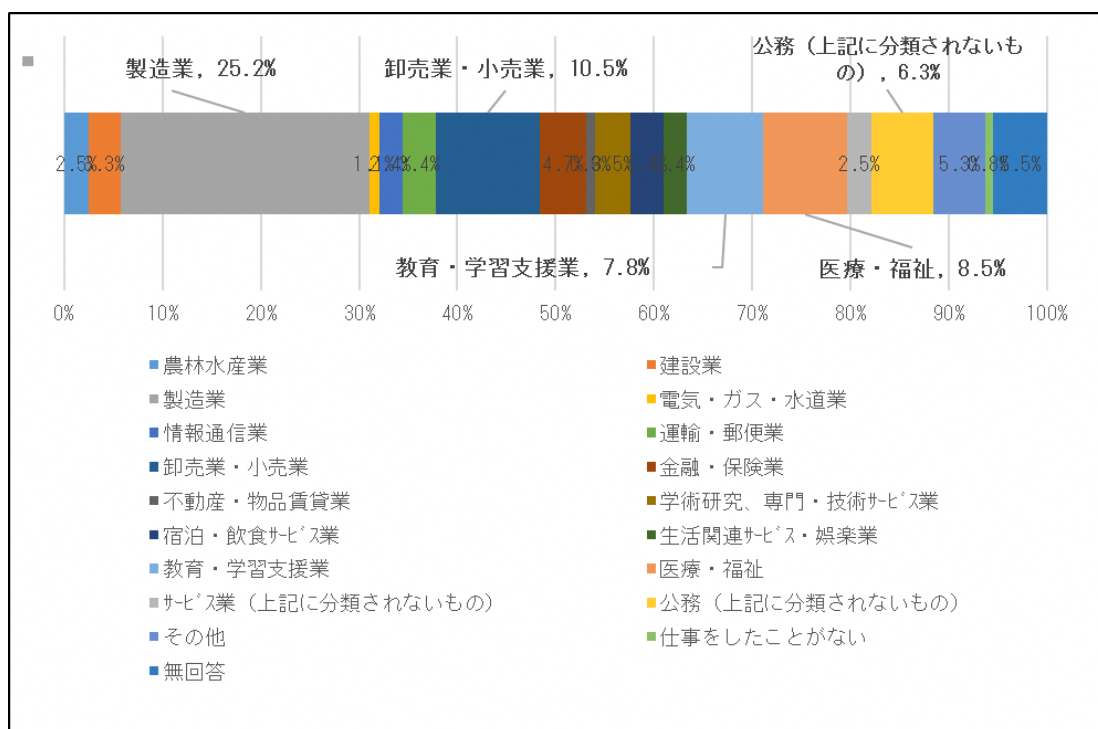
60歳代前半 21.3%、60歳代後半 32.3%と、若干の差異はあるもののそれぞれの分類から一定の回答を得ることができた(図 3-2)。

表3-2 居住地別回答数

中学校区別			居住地別		
高穂	154	20.2%	新市街地	166	21.8%
草津	183	24.0%	旧市街地	249	32.7%
玉川	110	14.5%	新旧混在地	178	23.4%
老上	85	11.2%	郊外	159	20.9%
松原	101	13.3%			
新堂	119	15.6%			

出所：草津未来研究所作成

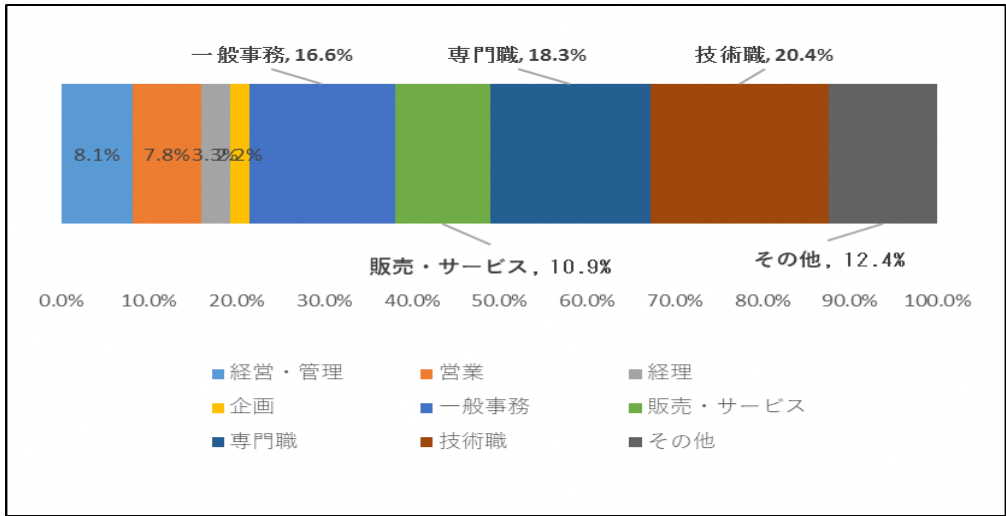
また、居住地別に見ると、旧市街地において若干多くの回答を得ているが、全ての地域からある程度均等に回答を得ている(表 3-2)。



出所：草津未来研究所作成

図 3-3 回答者の職業（産業分類・大分類）(MA:761)

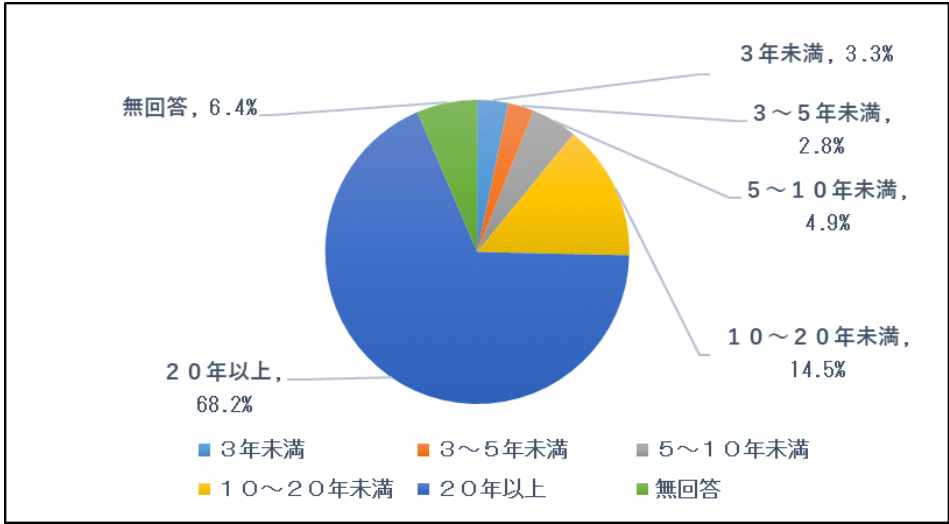
回答者の現在の職業は、国勢調査(2015)の結果と同様に製造業の比率が高く、次に卸売業・小売業、医療・福祉の順に回答を得た(図 3-3)。



出所：草津未来研究所作成

図 3-4 回答者の職種 (MA:873)

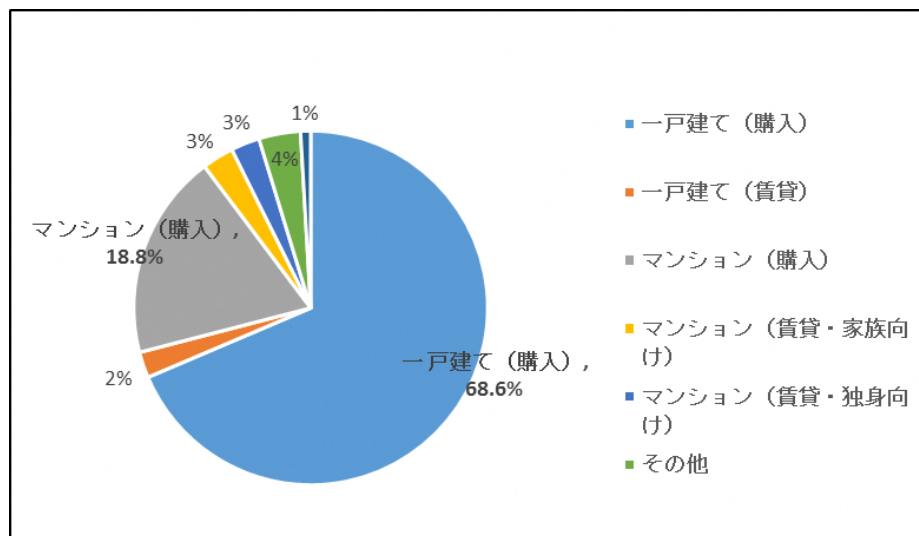
回答者を職種別に見ると、技術職、専門職が多くを占めており、次に一般事務の順に回答を得た(図 3-4)。



出所：草津未来研究所作成

図 3-5 回答者の居住年数 (N:761)

居住年数別に見ると、アンケート対象者が 50 歳以上であったことから、10 年以上の長期居住者からの回答が約 83%であった(図 3-5)。



出所：草津未来研究所作成

図 3-6 回答者の住居形態 (N:761)

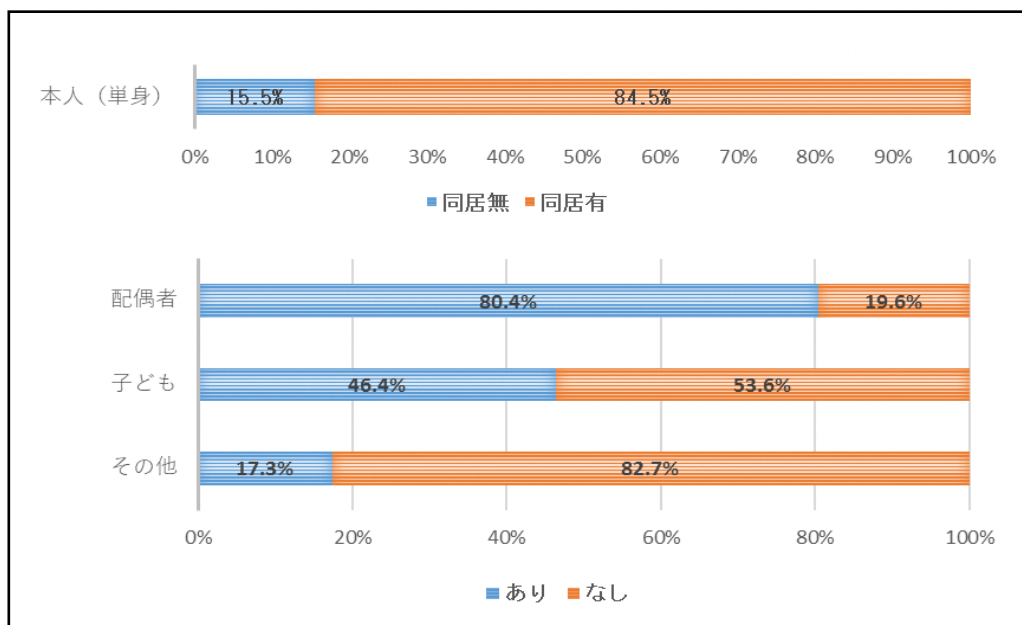
回答者の住居の状況については、住居を購入した回答者が全体の 87.4%を占めており、また一戸建てを購入した回答者の割合が最も高く、68.6%であった(図 3-6)。

表 3-3 居住住宅別居住年数

	無回答	3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上	総計
無回答	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	28.6%	100.0%
一戸建て（購入）	6.5%	1.0%	0.4%	3.4%	10.5%	78.2%	100.0%
一戸建て（賃貸）	0.0%	22.2%	11.1%	0.0%	27.8%	38.9%	100.0%
マンション（購入）	2.8%	4.9%	7.7%	7.0%	25.9%	51.7%	100.0%
マンション（賃貸・家族向け）	13.6%	4.5%	9.1%	22.7%	27.3%	22.7%	100.0%
マンション（賃貸・独身向け）	15.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%	5.0%	100.0%
その他	3.4%	13.8%	0.0%	0.0%	6.9%	75.9%	100.0%
総計	6.4%	3.3%	2.8%	4.9%	14.5%	68.2%	100.0%

出所：草津未来研究所作成

住宅ごとの居住年数を見ると、住宅の購入者については、居住年数が長い傾向がある。また、購入者のうち、マンションについては、居住歴が短い人も一定数存在している(表 3-3)。



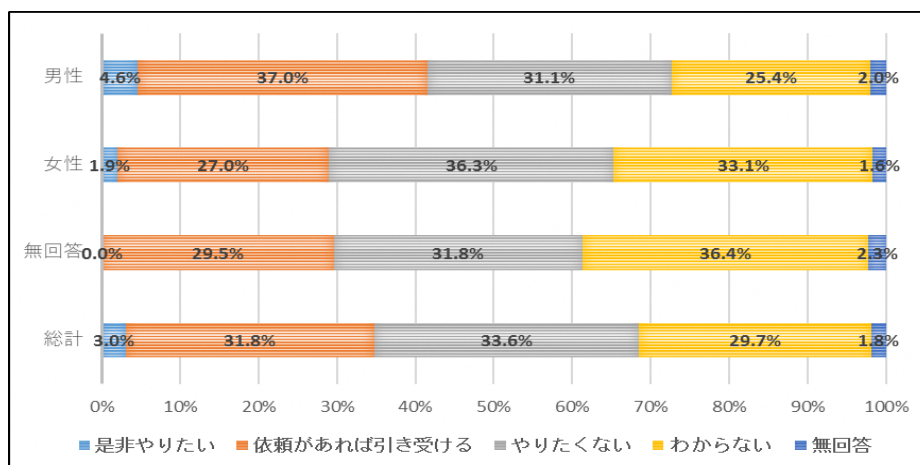
出所：草津未来研究所作成

図 3-7 回答者の同居家族 (MA:1, 265)

回答者の同居家族の状況を見ると、単身世帯は 15.8%であり、残りの世帯については、同居者として配偶者 80.4%、子ども 46.4%という状況であった(図 3-7)。

(2) 草津市における地域人材の現状

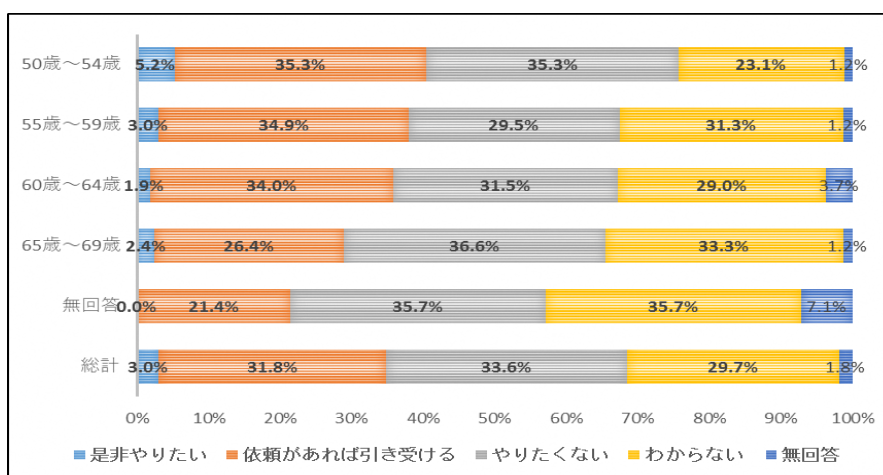
地域人材の現状に関して検討する際に、最も重要となるのは、地域への活動に対する意識や意欲である。本アンケートでは、これまでの仕事の経験や、趣味、特技を活かした活動が居住地域で行われた場合に、企画や運営をやってみたいかを設問としており(問 24)、この設問の回答選択肢、「是非やりたい」「依頼があれば引き受ける」「やりたくない」「わからない」の回答を中心に検討する。



出所：草津未来研究所作成

図 3-8 男女別地域活動への意欲 (N:761)

男女別の回答を見ると、男性の方が、「是非やりたい」「依頼があれば引き受ける」という回答した比率が高く、「やりたくない」という比率については、男女間で大きな差はない(図 3-8)。



出所：草津未来研究所作成

図 3-9 年代別地域活動への意欲 (N:761)

年代別の回答を見ると、年齢を重ねるにしたがって、「是非やりたい」「依頼があれば引き受ける」と回答する比率が減少し、活動を行うことへの意欲が低くなる傾向にある。特に 65 歳以上で「やりたくない」の比率が「是非やりたい」「依頼があれば引き受ける」と回答する比率を上回る結果となった(図 3-9)。

表 3-4 地域状況の認識別地域活動への意欲

質 問 (問 3～13)	無回答	是非やり たい	依頼があれば 引き受ける	やりたくない	わからない	総計
地域の活動は活発だ	2. 17	2. 05	2. 25	2. 27	2. 14	2. 22
地域の活動には参加しやすい	2. 42	2. 16	2. 54	2. 82	2. 48	2. 61
地域の活動には住民の皆さんが積極的に参加している	2. 17	2. 52	2. 63	2. 73	2. 57	2. 63
地域に誇れるものがある	2. 36	2. 32	2. 53	2. 68	2. 48	2. 55
地域の歴史・文化を知っている	2. 58	2. 64	2. 65	2. 81	2. 71	2. 71
地域に親しみを感じる	2. 17	1. 91	2. 09	2. 39	2. 20	2. 22
地域の情報はいつでも入手できる	2. 33	2. 52	2. 49	2. 66	2. 52	2. 56
地域には豊富な人材がいる	2. 17	2. 18	2. 40	2. 67	2. 42	2. 48
地域に協力し合える仲間や友人がいる	2. 08	2. 30	2. 55	2. 80	2. 51	2. 61
住みやすい地域である	1. 83	1. 26	1. 77	1. 92	1. 85	1. 83
住み続けたいと思う人が多い	1. 91	1. 32	1. 80	1. 92	1. 86	1. 84

出所：草津未来研究所作成

上記の表は、本アンケートにおける問 3 から問 13 までの設問において、「そう思う」の回答に 4 点、「ややそう思う」の回答に 3 点、「あまりそう思わない」の回答に 2 点、「そう思わない」の回答に 1 点として、問 24 の回答項目ごとに平均点を出したものである。

「やりたくない」と回答した者の点数が全体的に高くなっている。また、「是非やりたい」と回答した者は、母集団が少ないため（23 名）参考程度となるが、「地域に親しみを感じる」「住みやすい地域である」「住み続けたいと思う人が多い」の設問に対して低い点数となっており、全体的にも各設問において低い点数である。このことは、地域の現状に対して何らかの課題を抱えていることから地域活動への取り組み意欲につながっている可能性もあると考えられる。

表 3-5 中学校区別地域活動への意欲

	無回答		是非やりたい		依頼があれば引き受ける		やりたくない		わからない		総計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
高穂	4	3%	2	1%	43	28%	45	29%	60	39%	154	100%
草津	2	1%	7	4%	56	31%	63	34%	55	30%	183	100%
玉川	1	1%	8	7%	32	29%	39	35%	30	27%	110	100%
老上	2	2%	1	1%	29	34%	32	38%	21	25%	85	100%
松原	1	1%	0	0%	31	31%	42	42%	27	27%	101	100%
新堂	4	3%	5	4%	48	40%	32	27%	30	25%	119	100%
無回答	0	0%	0	0%	3	33%	3	33%	3	33%	9	100%
総計	14	2%	23	3%	242	32%	256	34%	226	30%	761	100%

出所：草津未来研究所作成

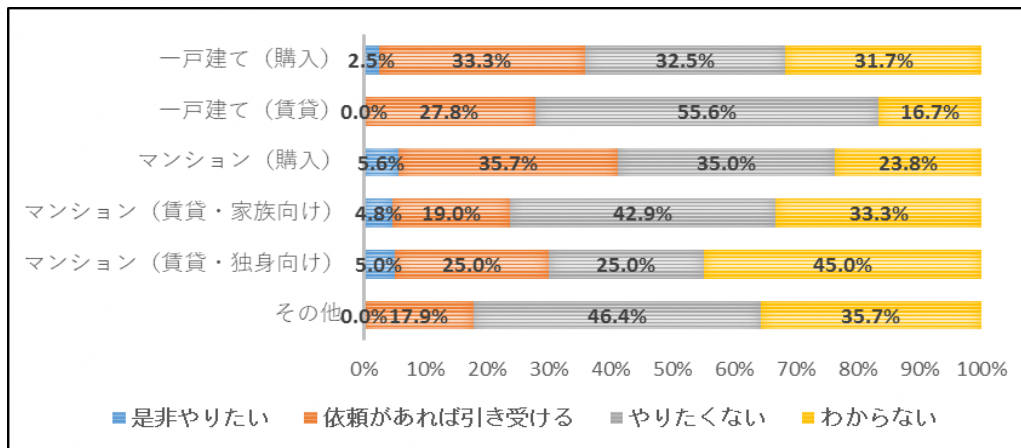
地域活動への意欲を中学校区別に見ると、「是非やりたい」「依頼があれば引き受ける」という回答が新堂中学校区で44%と最も高く、次いで玉川中学校区が36%、草津中学校区と老上中学校区がともに35%と比較的高い状況であった(表3-5)。

表 3-6 4 居住区分別地域活動への意欲

	無回答		是非やりたい		依頼があれば引き受ける		やりたくない		わからない		総計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
新市街地	1	1%	7	4%	54	33%	57	34%	47	28%	166	100%
旧市街地	6	2%	12	5%	75	30%	82	33%	74	30%	249	100%
新旧混在地	2	1%	3	2%	52	29%	56	31%	65	37%	178	100%
郊外	5	3%	1	1%	58	36%	58	36%	37	23%	159	100%
無回答	0	0%	0	0%	3	33%	3	33%	3	33%	9	100%
総計	14	2%	23	3%	242	32%	256	34%	226	30%	761	100%

出所：草津未来研究所作成

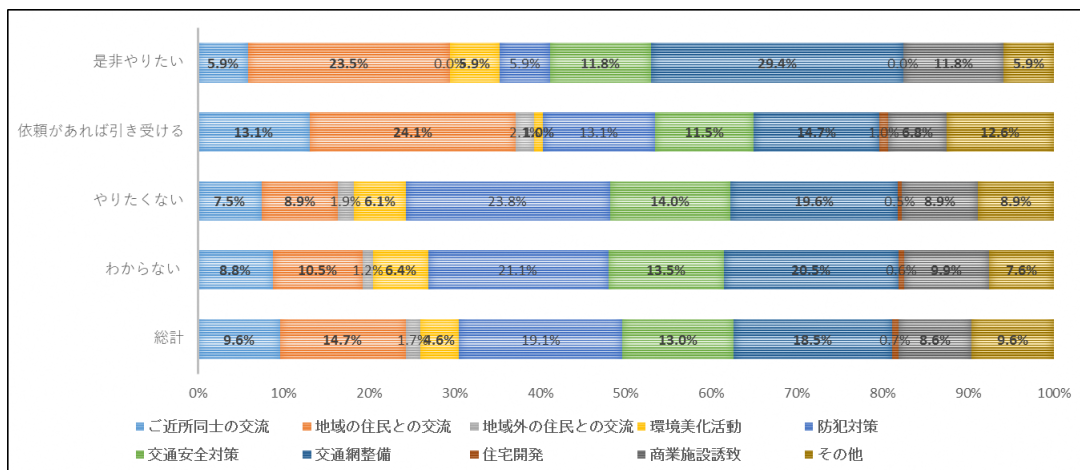
4 居住区分別の地域活動への意欲を見ると、どの区分も「是非やりたい」「依頼があれば引き受ける」と回答した者が一定数存在するものの、「やりたくない」と回答した者との割合が均衡している。このようなことから、今後は、「わからない」と回答した者に対して、「やりたくない」という意識を持つことがないような取り組みが必要である(表3-6)。



出所：草津未来研究所作成

図 3-10 住居形態別地域活動への意欲（無回答除く）（N:744）

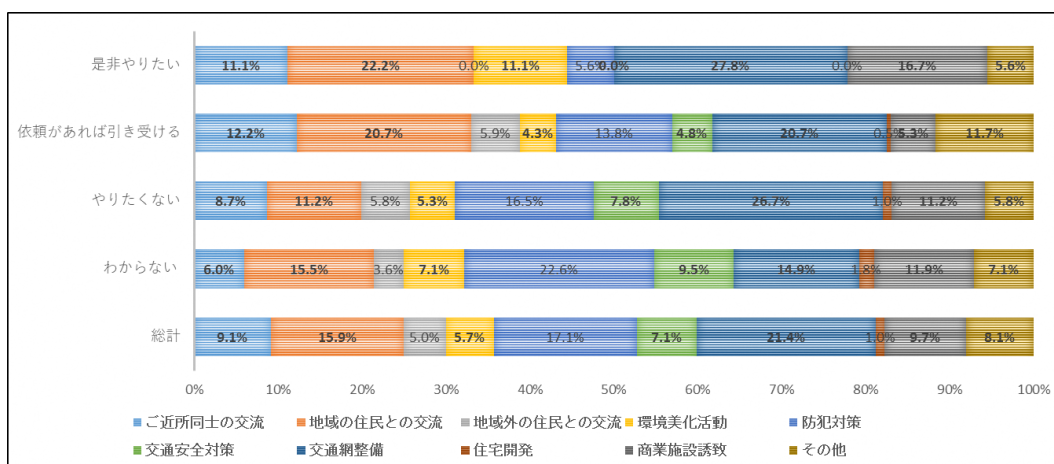
住居形態別に見ると、購入している人の方が、地域活動への意欲は高く、また、一戸建てよりも、マンションに居住する人の方が、「是非やりたい」という意欲のある方が存在する傾向にある（図 3-10）。



出所：草津未来研究所作成

図 3-11 地域活動への意欲別 現在地域で必要なこと（無回答除く）（N:593）

居住地域において現在必要と考えられることは、「是非やりたい」と回答した人は、母集団が少ないため参考程度となるが、「依頼があれば引き受ける」と回答した人も含めて、地域の中で人との交流を重視している。一方で、「やりたくない」と回答した人にとっては、防犯対策などの安全面を重視している（図 3-11）。



出所：草津未来研究所作成

図 3-12 地域活動への意欲別 将来地域で必要なこと (無回答除く) (N : 580)

居住地域において将来必要と考えられることについても、「是非やりたい」「依頼があれば引き受ける」と回答した人は、地域の中での人との交流を重視している。また、母集団が少ないので参考程度となるが、「是非やりたい」と回答した人の中では、交通網整備・商業施設誘致といった賑わいの創出に対する意識が強く出ている(図 3-12)。

表 3-7 地域活動への意欲別 趣味特技の有無 (複数回答・無回答除く)

	趣味特技あり	趣味特技なし	平均回答数
是非やりたい	95.7%	4.3%	1.73
依頼があれば引き受ける	81.8%	18.2%	1.57
やりたくない	63.3%	36.7%	1.46
わからない	72.1%	27.9%	1.36
総計	73.2%	26.8%	1.48

出所：草津未来研究所作成

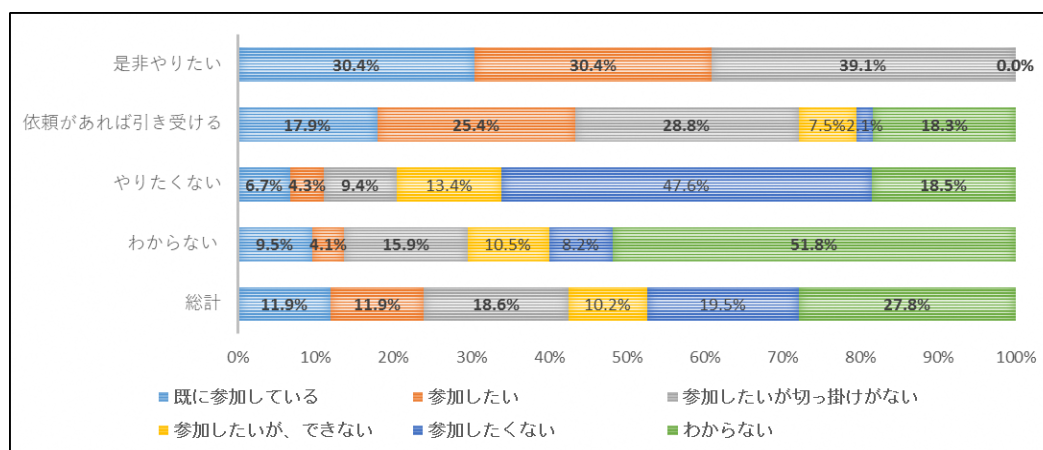
地域活動への意欲別に、趣味や特技の保有状況を見ると、「是非やりたい」「依頼があれば引き受ける」と回答した人は、趣味や特技を有している割合が高く、更に複数保有している人が多い傾向にある。このことから、趣味や特技がある人ほど、地域活動へ取り組むことができる可能性が高いと考えられる(表 3-7)。

表 3-8 地域活動への意欲別 活性化に必要な人材（最多回答のみ・産業分類大分類）

	最も必要な人材	次に必要な人材	必要な人材
是非やりたい	○学術研究、専門・技術サービス業	○学術研究、専門・技術サービス業	○宿泊・飲食サービス業
依頼があれば引き受ける	○情報通信業	○教育・学習支援業	○教育・学習支援業
やりたくない	○医療・福祉	○医療・福祉	○公務（上記に分類されないもの）
わからない	○医療・福祉	○医療・福祉	○公務（上記に分類されないもの）
総計	○医療・福祉	○医療・福祉	○公務（上記に分類されないもの）

出所：草津未来研究所作成

地域の活性化に必要な人材については、「是非やりたい」「依頼があれば引き受ける」と回答した人は、研究機関や、法律、財務、経営関係などの「学術研究、専門技術サービス業」や、情報の伝達、提供、処理サービスや、インターネットなどの「情報通信業」に係る人材を選択した人が多く、「やりたくない」「わからない」と回答した人は、「医療・福祉」に係る人材を選択した人が多くを占めていた(表 3-8)。

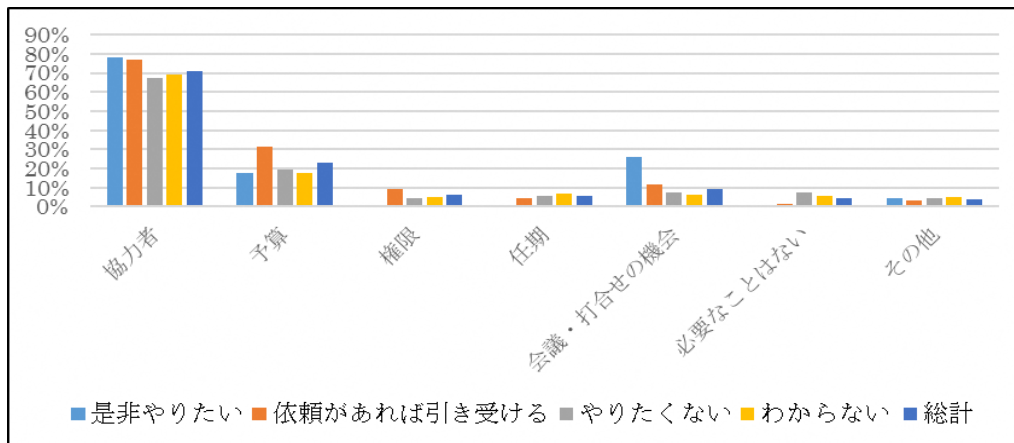


出所：草津未来研究所作成

図 3-13 地域活動への意欲別 仕事引退後の地域活動への参加意欲（無回答除く）(N:737)

仕事を引退した後の、メンバーとしての地域活動参加意欲については、意欲的な人ほど既に参加していたり、参加したいと考えている割合が高く、地域活動への意欲について「わからない」と回答した人は、当該設問でも「わからない」と回答した人が多いものの、「参

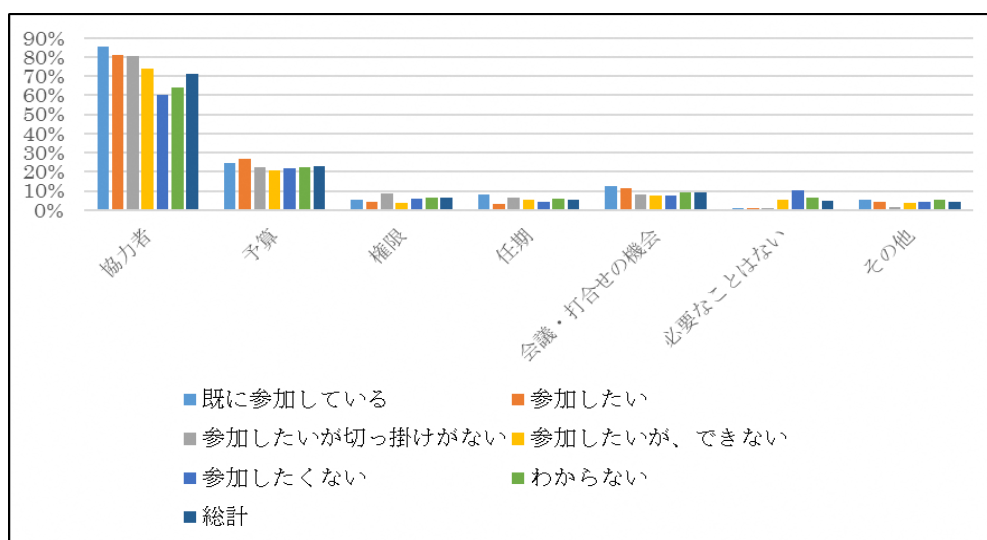
加したくない」と回答した人は少なく、「参加したいが切っ掛けがない」と回答した人が多く存在したことから、地域活動について、これまで考えたことがなかったという可能性もある(図 3-13)。



出所：草津未来研究所作成

図 3-14 地域活動への意欲別 活動時に必要なこと（無回答除く）(MA:926)

地域活動時に必要なことについては、意欲の有無に関わらず、「協力者」を必要とした回答が非常に多く、次に、「予算」や「会議・打ち合わせの機会」の順であった(図 3-14)。



出所：草津未来研究所作成

図 3-15 地域活動への意欲別 仕事引退後の地域活動時に必要なこと（無回答除く）(MA:752)

仕事を引退した後に、地域活動時の必要なことについては、地域活動に「参加したくない」と回答した人の割合は比較的低いものの、全体的に「協力者」を必要とした回答の割合が高かった。また、既に地域活動へ参加している人からは、より良く活動していくためにも「協力者」を求めていることが想定できる(図 3-15)。

ここまで、アンケート結果について述べてきたが、特に地域活動を行おうとしていく上で、住民間の交流を積極的に行うためには、「協力者」を必要としている状況が明らかとなった。